

人と自分に一日一善

市

内で右の文字が書かれた旗を見かけた方も多いのではないのでしょうか。市役所の周りや通学路、交流センターなどに掲げられています。この旗に書かれている「人と自分に一日一善」に込められた思いや願いについて考えてみませんか。

青少年健全育成スローガン決定

市では平成29年に、子ども・若者の健全育成に対する総合的施策の樹立と地域および家庭の教育力向上を目的として、子ども・若者政策懇話会を設立しました。

この会では行政、学校、地域、家庭などあらゆる場面において、近年希薄になりつつある『つながり』をつくり、子どもたちの豊かな心を育

むためのスローガンとして「人と自分に一日一善」を提案しました。そして、平成31年1月27日に市民文化会館で開催された磐田市青少年健全育成大会で、「人と自分に一日一善」がスローガンに正式決定しました。



▲磐田市青少年健全育成大会の様子

「人と自分に一日一善」

「一日二善」で優しいまちに

のぼり旗にもなっている磐田市青少年健全育成スローガン「人と自分に一日一善」の文字は渡部修市長の直筆で、その一文字一文字には、子どもたちや今後の磐田市を思いやる心が込められています。

市長は以前インタビューで「他人に対して一善、自分にも一善、合わせて一日二善行えば、人々の優しさがあふれるまちになります。気持ちの優しい市をつくりたい。理想論かもしれませんが、小さな事でも積み重ねていけば、形になることもあると思っています。なんで磐田市の出身者って優しいんだらうと人から言

われるようになるといいですね」と答えています。

のぼり旗を見て思ったこと

地域に立つのぼり旗を作文に書いた小学生がいます。磐田北小学校4年の相馬隆之介君は、今年度開催された「小さな親切」運動主催の作文コンクールで、県では静岡県知事賞に、全国では特別優秀賞に選ばれました。相馬君は作文の冒頭で次のように書いています。

「ぼくの住む街には、『人と自分に一日一善』とキレイな字で書かれた白色の旗が立っている。(中略)ぼくはいつも、旗の横を通るたびに、むねの辺りがズキンとする。――



▲のぼり旗を手にあいさつ運動をする磐田第一中学校の生徒たち



▲学校前で子どもたちの登下校を見守るのぼり旗

消極的な自分に自信が持てなかった相馬君は、旗を見るたびに、そんな自分が人に親切になんてできるはずがないと思い、心を痛めていました。しかし、父親の勧めで行ったホームステイで、「ありのままの自分」を受け入れて認めてもらえる体験をしたことで、自分や相手を認め合うことの大切さを学びました。相馬君は帰国後、旗を見て気付ききます。

「そうか、ぼくはもうずっとずっと、ありのままの君でいいよって、みとめてほしかったんだ。ぼくにとつての親切って、相手のことをまずは「You do you」ってみとめることから始まるんじゃないかって。もちろん自分のことも。」

特別なことをしなくても、自分や相手を認めることも親切（善）であり、できることからやっていこうと思つた相馬君は、旗を見ても前向きに捉えられるようになったそうです。

人や地域を優しきでつなぐ

「人と自分に一日一善」のスローガンは呼び掛けであつて義務ではありません。また、特別に何かの「善」をする必要もありません。相馬君のように相手や自分を認めることや、あいさつをすること、ありがとうを伝えること、自分を褒めてあげること。他人や自分への、ほんの少しの心掛けが一つの「善」と言えます。

旗を見て思うことは人それぞれかもしれませんが、他人を思いやることで周りも自分も優しくなれます。日々の生活の中で一人でも多くの人々が少しずつ「一日一善」を心掛けることで、より良い地域、人々の優しさがあふれる磐田市になっていくことでしょう。



▲市役所の駐車場にも掲出しています